

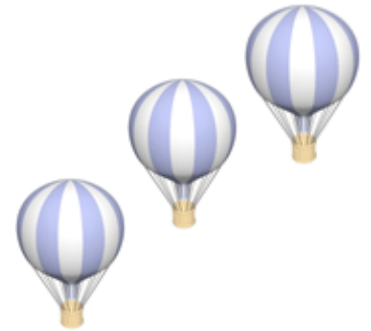


←これはトラック

一週間、どこにでも行かれるとしたら、どこでどんな暮らしをしますか？
またトランクには何を詰めていきますか？



たつぷと



1週間の旅、行き先は自由ですが、はて何を持っていくかが問題です。
この位の小旅行では、小さなスーツケースとお泊りグッズ&水着
あとはカメラを2台、スケッチブックと小型リュックサックが定番です。
これじゃ〜あ、まるで「夢」が無いって・・・(^ ^ ;

では、行き先をアフリカの「サハラ砂漠」にいたしましょう。
トランクに詰め込んだのは、小さなオアシスセット???
炎天下を歩き疲れたら、オアシスセットを開き、一休み (^ ^ ;
但し一日に一回しか使えません。

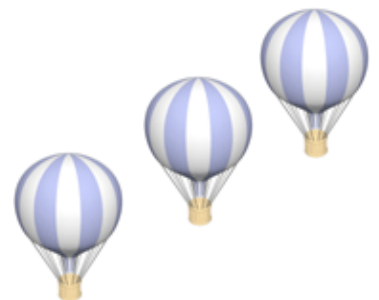
キレイな水の湧き出るオアシス、心地よい木陰で過ごす時間は
なんとも言えない、リフレッシュタイムです。

ついでに、そこで一泳ぎ出来たら云うことなしなんですけど・・・

By タツノオトシゴ でした。



ひびこ



A案： タイムトラベル

1週間という期間限定なので、荷物は少なくても済みそうですが、その時代にマッチした
外見の服装となると2着分くらい用意していく必要があります。多分、洋服屋さんの特注
となるので、自分の記憶がある過去へのタイムトラベルとなりそうです。お金も必要です
ね。古銭として購入できる紙幣をかなり多量に持っていく必要があります。そう考
えると安全なのは、最近映画になっている昭和30年代がよいでしょう。実際に東京タワー

の建設途中を見に行ってみるのもいいですね。33年に高校卒業記念に仲のよかった友人と建ったばかりのタワーに登って東京を俯瞰した記憶があります。従って、31年から32年に田町の付近に行けば建設途中が見られる筈ですね。

後に入社することになる会社の本社社屋も見たいですね。鉄筋4階建てのどっしりとした日本銀行のような感じの建物でした。日劇もまだ健在で、レビューが行われているのではないのでしょうか。「君の名は」で有名になった数寄屋橋はすでに埋め立てられてショッピング街になっていたように思いますが、実地検分してみましよう。

このトラベルの強みは「土地勘」があることで、道に迷う心配は少ないと思われます。＜自分＞と出くわないために、横浜は残念ながら敬遠しましょう。秋葉原の電気街とか銀座は親についていった経験があるので、要注意ですね。

最終日はちょっと冒険で横浜めぐりを考えます。多分、元の本人は高校生のはずで、その高校も今日現在はありません。チェックポイントですね。家族にも会ってみたいが、パラドックスに引っかかって戻れなくなったり、消滅したりするのも困るので、今回は止めにします。まあ、会っても向こうは分からないでしょうね。親より高齢で、知らないおじいさんで済むかも知れませんが。

トランクには持病薬10日分、その他常備薬も入れて行きますが、忘れてこないこと。旅の記録にカメラは必需ですが、ケータイはだめなので、ニコンとかの一寸重たそうなデジカメを持っていきましょう。これも忘れてこないこと。

事前の準備に安くみて200万円は掛かりそうですが、成果の大きさから考えれば、豪華客船で世界一周にも劣らないトラベルになると思います。

では、早速準備にかかりましょうか。

B案： のんびり保養

これは現実的なプランで、東南アジアのリゾート地で1週間というものです。夢のトランクはどこでもドアのように「交通費」がただになる利点はあるものの、滞在費は自前ですよね。外国の場合、正規の交通手段を用いないと、入管がないことで、不法入国になりそう。一流ホテルはパスポートとビザを確認しますよね。すると、場末の怪しいホテルに泊まるのか？ 本当はインドネシアの名所めぐりやシンガポールでの列車旅行を考えていたのですが、こう考えると難しそう。一寸危険だが、フィリピンのマクタン島も候補だったんですが。

というわけで、国内にしました。沖縄か北海道の秘境といわれるところに行きましようか。どうも「Dr. コトー」や「北の国から」の影響が強いなあ。本当はリゾートホテルのプライベートビーチで1週間ぼけっと海を見ていたいのです。トランクには身の回り品を除き、ほとんど空で出かけてよいでしょう。マクタン島のホテルシャングリラで土日の2日ほどこれに近い経験があり、忘れられないですね。

南国の夕日はこたえられません。寄せる波も、一つとして同じではありません。サイクリングを楽しみながら、その光景を眺める。ああ、いいなあ。

C案：  昆虫世界

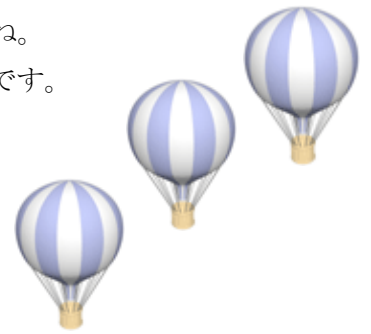
これは夢のトランクに変身機能がついている改良型を想定しています。50分の1位に矮小化してカブトムシになってみたい。カフカの物語では等身大の甲虫に変身したので問題なのですが、このプランは実物大の昆虫に変身するものです。でも、うすばかげろうみたいなものは成虫としての寿命が短すぎてトラベル中に尽きてしまう悲劇に見舞われそうです。で、甲虫、それもカブトかクワガタ、に変身することを考えました。蝶や蜻蛉も憧れますが、蜂や鳥などに食べられて1週間持たないリスクが大きいですからね。

ただ、この巨大甲虫は夜行性でしたよね。夜になって樹液を探しに行くだけの1日は退屈そうではあるのですが。ベストスポットを確保するのに、他の昆虫と戦う必要もあるのですね。体育会系ではなかったのだからちゃんと餌にありつけるかどうかも心配。甲虫にふさわしく小型化した夢のトランクには砂糖水を入れておいた方がいいかもね。

C案の問題は生還率の低い点で、この問題をどう解決するか目下改良中です。



とみい じゅにみ



一ヶ月や一年だと「暮らす」という感じになると思いますが一週間なら、やはり「旅行」ですね。旅行の場合は自分がストレンジャー（旅行者）としての意識でどこを歩きたいかということですね。まあ、当然家族旅行ではなく一人旅ということでしょうから、そうなる私の場合は「南の島」ですね。

でも無人島とかサバイバルキャンプのようなワイルドな暮らしをするほど根性はありません。といて、コンクリートのホテルでクラブメッドみたいなパッケージというのもちよっと鼻白むので、小さなコテージ風の宿、がいいかな。国内なら民宿で食事は土地の魚など簡素なものがいいですね。

海外ならちょっと衛生状態が恐いので、やはりある程度のクラスのコテージタイプのリゾートホテル。バリ島のイメージですね。バリなら街に出てレストランで食べても屋台でナシゴレンを食べても美味しいしね。朝から夜まで好きな時間に海を眺められる部屋で過ごしたいですね。泳ぐとかね。

さて、トランクにはできるだけ何も詰めて行きたくないですね。私は携帯電話の類は持っていませんし、ノート PC でネットにつないだら家に居るのと同じになるので、せいぜいいつも胸ポケットに入れているカードデジカメのクレイドルとあとは現地で絵葉書を書くための万年筆と替えインクくらいですかね。

本も最小限にしたい。文庫本として片岡義男の短編集 1 冊と、少しずつ読んでいた恩師・前島先生の「ナザレ派のイエス」、それに文芸春秋の最新号を 1 冊買って行きたい。トランクに詰めて帰ってくるモノの方が楽しみなので、行きは空いているところが「夢」の部分。でもスペースが不要な土産が一番。



がっこ



一週間どこにでも行くことができるとしたら・・・

わたし、「夢のトランク」にドラえもんグッズを詰めてストーカーになります！！

どこでもドア～！そこは・・・レコーディングスタジオ、「Hey 3」の収録現場、

どおおおーしてもチケットが手に入らず涙を呑んだ Z E E P T O K Y O !

もちろん他の誰でもない桜井くんが歌ってるそこへ。

再び、どこでもドア～！そこは桜井さま宅。もちろんお家に入ったら透明マントをトランクから出さなきゃね。

桜井くん、あたしあなたに奇跡を見せてあげる。なにしろ透明マント着てるからなんでもできちゃう。空飛ぶスプーンなんかいかが？片付けても片付けても食卓に現れる胡椒とかさ。

いぶかるあなたを間近に覗き込んだら、何か感じてくれるかな？

そんでいつか、僕はなんだかあの日奇跡を見たみたいだ♪なんて歌ってね。

こんな密着生活を一週間続けたらどうなるんだろ？

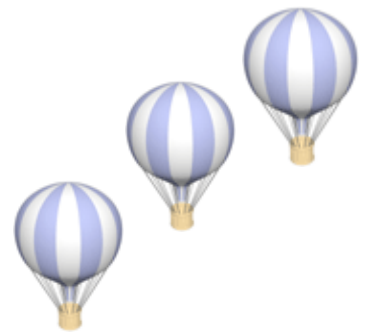
もしかして全ての夢は削げ落ちる？

思ったとおりの人じゃなかったら、だいじょぶか、あたし？

でもでも案外、ありきたりな想像力を軽く超越してる、

思った以上の人物だったりして。ふふ。

夢は広がる「夢のトランク」。



うたみ

さて一週間と言う休みを貰ったらどうしよう。貰ったと言うのは主体性が無いなあ。勝ち取った一週間とするか。季節はいいし、海や山に行ってみるか？いや、いや、家でごろ寝するのも捨てがたいぞ。それじゃあトランクを持っていく理由が無いか。誰かが来たら、そのトランクに入って隠れちゃうってのもいいな。(夢のトランクじゃないジャン！そんなことをしている間に、トランクの蓋に鍵が掛かっちゃってさ、窒息しちゃうのさ！)

やはり山に行こう。暑い山はごめんだ。滝の傍の葉の茂った涼しい木陰だね。トランクの中から、簡易テーブルと椅子を出して、しばし、お昼寝。

気が付くとあたりに夕闇が寄せてきて少し薄暗くなってきている。トランクを開けて中からランタンを取り出すぞ。周りの木の枝に吊るし火を入れる。辺りが急に明るく見えてくる。

うさおは明るいのがとても好きなので、ランタンをもう5個取り出して周辺に吊るす。やあ、明るいなあ。

ランタンに誘われて虫が飛んでくるのに辟易して、今度は蚊帳兼テントを取り出す。虫は防げて煩くないのだが、微妙に蚊帳が風を通さないのでむしむしする。暑い、入っちゃいけない。

トランクからイーゼルを取り出して、ワトスン紙を貼り付ける。後で水彩にするつもりだ。B4の濃い目の鉛筆を取り出して、辺りの風景を描くことに。しばらくすると綾目も判らぬくらいに暗くなって来ちゃったので、絵を描いてるどころじゃなくなってきたぞ。

トランクから豚の腿肉の塩茹でと、酢漬けキャベツ、ベーグルなどを出し、ワインはどうしようかと迷った。呑める口ではない。結局、舐めてみることにしボトル一本の口を切った。う〜ん、舐めることも出来ない、下戸の**うさお**。コップ一杯でまた眠くなった。堪らない。

外聞もなくトランクの中に潜り込んで、薄手の布団を被って寝ちゃうことした。

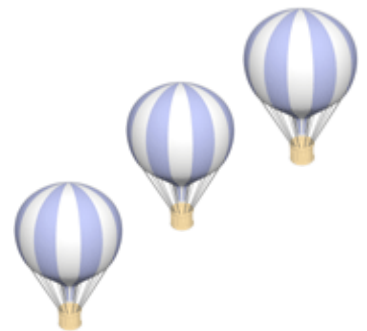
・・・・・・・・。しばらくして目が覚めると、何か息苦しい。手を伸ばすとトランクの蓋に手が届く。あれっ！閉まっている！。強く押してみたが開きそうにも無い。

ここは山の中、叫んでも誰も来ない。早すぎた埋葬はいやだ！振り回した足が蓋に当たった。ガチャ！あつ、鍵が掛かっちゃたらしい。「埋めのトランク」だったか？

ああ、本当に・・・・ち、ちっ、窒息するう・・・・・・・・。



わがわようじ



夢なんだから何でもありにしよう。一週間という期限もなしにする。期限が切れた後のことを考えて行動が萎縮したんでは本来の主旨に反する。ここは思いきり、飽きるまで続けられることにして夢のトランクを考える。

何でもありなんだから、僕は富豪だ。お金はスイスの銀行口座でうなっている。

そして今僕は地中海に面するリゾート地の高級ホテルのスイートルームにいる。少ししたら下のビーチに下りてハンモックの中でシャンペンを楽しむつもりだ。そこには金髪の美女がビキニの水着で待っている。何故かしら彼女は僕の日本語を完璧に理解するし、僕は彼女のフランス語を完全に理解できる。なにしろ何でもありなのだ。彼女との一時が楽しいのは決して彼女の美貌に原因があるのではなく、充実した会話があればこそだ。

あ、今彼女がさかんに手を振っている。早く下りて来いと言っている。僕はトランクの中

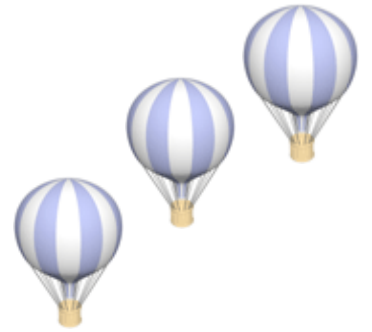
から読みかけの「日本の歴史」(中央公論)を脇にいれバスタオルを肩に階段をおりた。砂浜につくと彼女は僕にシャンペングラスを渡す。昨夜僕が彼女に弾いて聞かせたショパンのノクターンが未だに耳の奥で甘い旋律を奏でているという。誰にもおおっぴらにはしていないが実は僕のピアノの腕は玄人はだした。なにしろ何でもありなのだ。

しばし談笑した後、彼女は身を弾ませる様にして海辺へ走っていった。若さが彼女を動かしている。時々こちらを振り返る彼女に手を振り、僕は持ってきた本に目を落とした。こんなところまで来てまだ本を読むってどうしてなんだろう？

トランクの中には歴史の本しか入れて来なかった。服や食べ物はスイスの銀行から下ろしたお金で現地調達できる。カメラ？忘れてしまったが別にないからといって不便を感じない。本当は女房をトランクに入れて来たかったのだが、ちょっと容量がオーバーしてしまった。



てか



日出彦さんのを読んで発想を変えたら、ただの妄想になってしまった。。

☆ざ・もーそー

まずは『ミクロの決死圏』みたいにミクロな身体になって鼻の穴の中から身体に入ろうかと思ったけど、あまり楽しそうじゃないし、ちょっと気持ち悪そうで却下。

昔、友達が ちっちゃくなってあの人のポケットに入りたいのお♥ ってなこと言ってるのを聞いて けっ👊 って思ったけど、今しっかり同意。

そうだ、コビトになろう♥ それで小林賢太郎(ラーメンズ)のポケットに入り込む♥♥

コビトだから荷物もそうはいらない(てか、コビトに必要なものって?)。

食事もご飯粒ひとつもあればおなかはいっぱいだろうし、お水も雨の一滴も飲めばいい。

ちょっと年くってるのもちっちゃいからきっと目立たないし👍

何故浜省じゃないのか？浜省より圧倒的に小林賢太郎の方がコビトを喜んで受け入れてくれそうじゃないの♥ きっとその1週間、小林賢太郎はコビトの存在を誰にも言わず、どこにでも連れて行ってきて、きらきらした眼でずっとお喋りしてくれるはず。いえ、けしてお喋りが目的じゃあないんですけどね👍

つぶされないようにポケットにもぐりこむ事と、元の姿に戻って逢ったときのギャップをどう埋めるかが、鍵。



←プーチン

ってな感じで、秋まで浜省はお休みのワタクシでした、



← b y 小林賢太郎 バニーボーイ